

研究課題「教職員の専門性に関する課題」

研究主題「ICT機器を学習や校務に効果的に活用するためのシステムづくりと校内研修の活性化について」

都城市教頭会（五十市・西地区）

1 主題設定の理由

GIGAスクール構想の実現に向け、令和の学びのスタンダードとして整備された一人一台端末は、「多様な子どもたちを誰一人として取り残さない」「個別最適化された教育環境を実現する」として教育現場に導入された。

本地区においても、授業における一人一台端末の活用、学校運営や家庭・地域との連携を支えるICT機器の活用等、各学校における実践が進んでいるが、ICT機器を教育現場で活用するためには、さらなる専門性を身に付けることが求められている。

そこで、本研究では、ICT機器を学習や校務に効果的に活用するためのシステムづくりと校内研修の活性化を図るための教頭の役割について、検討・整理するために本主題を設定した。

2 研究のねらい

ICT機器を学習や校務に効果的に活用するためのシステムづくりと校内研修の活性化のための教頭の役割はどのようにあればよいか検証する。

3 研究の概要

(1) ICT機器を学習や校務に効果的に活用するためのシステムづくり

- 円滑にICT活用を行うための校内組織づくり

校務分掌として研究部を新設し、校内研修とともに、情報教育担当も兼ねるようにした小学校がある。部員は、各学年から1名ずつの6名で、年度当初のタブレット端末やアプリの膨大な設定等を学年別に分担して行うことで、業務負担の平準化を図ることができた。同様に、教務部に学年ごとのICT担当を位置付けた中学校がある。次年度はさらに、学習部にもICT担当を配置し、校務関連は教務部、授業関連は学習部という役割分担を行う計画もある。

ICT推進委員会（構成員：管理職・教務主任・ICT担当者・技術科職員・各学年の

代表者）を開催することで、組織的な対応を行っている中学校もある。

校務分掌の情報教育担当を3名配置し、明確な役割分担を行い、担当者の負担軽減と専門性の向上を図った小学校もある。

ICTに関する業務は年々膨大化しており、校内組織の構築や業務分担等の校務の整理のために、教頭の役割は大きい。

- ICTを活用した授業や家庭学習の取組
本地区では、以下のように、授業や家庭学習のICT機器が積極的に活用されている。

【授業における活用例】

Figjam アプリ…1つのシートにめあてや参考資料等を一単元分用意し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。

Padlet アプリ…多様な意見を即時に共有・可視化し、協働的な学びにつなげる。

Google フォーム…授業の終末段階に振り返りを行う。

Google ドキュメント…作文の学習で活用し、推敲を容易にできるようにする。

家庭へのオンライン配信…入院中の児童に対し、授業をオンライン配信する。

写真や動画…動画視聴を取り入れ、運動のイメージをもって体育の授業を進める。観察や実験の様子を写真や動画に撮って記録し、考察の際に活用する。

授業のユニバーサルデザイン化…ICTを活用し、生徒が学習の在り方を選択できるようにする。

【家庭学習における活用例】

スライドやKahoot!での課題配信…個々の進度に応じた学習を支援する。即時にフィードバックすることで、生徒の学習意欲向上にも繋がっている。

A I型教材「キュビナ」による課題…学校単位や学年単位で、課題を出す日を設定している。個に応じた学習に繋がっている。

- 校務の効率化に向けたICTの活用
校務の効率化にあたって、本地区では以下のような取組を行っている。

<p>ア 学校ポータルサイトの運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示版機能による紙文書及び会議の削減 ・ Todo リストによる提出物等の締切の確認 ・ カレンダーによるスケジュール管理 ・ 熱中症指数等の保健的な情報の掲示 <p>イ Google クラブルームの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡掲示板による職員間の情報共有 ・ フォーム機能を用いた簡易アンケート <p>ウ 学校・保護者間連絡アプリの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校からの連絡文書の送付 ・ P T A総会資料やP T A新聞の電子化 ・ 学校運営協議会や地域ボランティアへの連絡 <p>エ 生成AI サービスの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文書や提案の骨子づくりへの活用 <p>オ Google フォームのアンケート機能の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種調査等の回答への活用
--

職員への伝達には、内容、求められる周知のスピードなどに合わせて使用するアプリを使い分けている。その一方で、クラブルーム、共有フォルダ、校務支援システム (C4th) など、複数のプラットフォームを並行利用していることで、情報の分散化が生じている。さらなる効率化のために、各アプリの役割を明確にし、データ管理の一元化を行うために、教頭を中心に環境を整理していく必要がある。

(2) 校内研修の活性化

- 職員研修の充実について

研修の進行や運営について、研究部の職員が持ち回りで担当したことで、持続可能な形でICTの活用推進ができるようにした。

授業研究会や行事反省等で、Figjam アプリを活用することで、時間をかけずに、より多くの意見の収集・整理ができた。また、教頭の発案で、自主公開授業の取組を始めた小学校もある。初めに教頭自らが公開授業を設定し、気軽に公開しようとする雰囲気づくりに

努めた。その結果、進んで授業公開する職員が増えてきている。

- O J T研修の充実について

校時程を工夫し、放課後に自主研修・個人面談の時間を設定した小学校がある。自主研修の時間については、ICTに関するものと学級経営に関する基本的なものを交互に行う。ICT操作に長けた若手教員と、これまでの実践を伝えるベテラン教員が、互いに自己有用感を感じて研修に参加している。

また、国語、算数など4つの教科・領域班からなるメンター制度を基盤とした研究を行っている小学校がある。各班では、教材研究や実践上の課題の解決、初任者の指導案検討や授業アドバイスなどを担い、全職員で若手を支える体制を確立している。専門性の高いベテラン教員の知見を活かし、学年の枠を超えた協働的な学びとなっている。

- 大学と連携した研修について

大学と連携して、授業における学びのユニバーサルデザイン化の研究に取り組んでいる中学校がある。若手教員を中心として、夕方にオンラインでの勉強会を実施したことで、研究の更なる推進を図ることができた。

4 研究の成果と今後の課題

- (1) 成果

- ICT機器を学習や校務に効果的に活用するためのシステムづくりを行ったことで、学校全体でのICT活用推進を図ることができた。
- 校内研修の活性化を図ったことで、ICT機器の活用促進だけでなく、職員間の情報共有が進み、教職員の指導力向上や働き方改革につながった。

- (2) 課題

- ICT機器の利用頻度が高まっている反面、情報の分散化が課題である。教頭を中心に環境を整理していく必要がある。